

## 「インドネシア大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学農学部2年 秋葉 瑠美花

- ①今回の派遣を通して、日本語学習者とのコミュニケーション方法を学ぶことができた。その最も重要な機会は最終日の共同プレゼンテーションのための準備におけるやりとりであった。自グループの共同プレゼンテーションで扱う内容は難しく、専門的な知識を要するものでもあり、インドネシア大学の学生とその内容をいかにして共有するかが大きな課題であった。共同発表のパートナーの様子を窺いつつ、できるだけ日本語で説明し、適宜英語やインドネシア語も用いてこの課題を乗り越えたが、このような経験をするのができたのは今回の派遣における最大の成果であると考えている。説明力を鍛えるだけでなく、言葉では説明できない慣習や考え方の違いが存在することを実感することで、インドネシア人、日本人についての理解を深めることもできた。英語の使用頻度はあまり高くなかったが、難しい用語に関しては英語での内容共有になることが多く、英語の利便性と重要性を実感することもできた。また、このことによってインドネシアの文化に対してより興味を持つことができ、インドネシア語を始めとするインドネシア文化についての学習意欲が高まった。他に、今回の派遣で快く受け入れていただいた経験から、自分自身も日本に来る留学生の受け入れプログラムに参加してみたいと思うようになった。今回の派遣ではインドネシアの中でもジャワ島にしか行くことができなかったが、インドネシアの文化を学ぶうちに、多様なインドネシア各地の文化にも興味を湧いたため、次の留学では、インドネシアの他の地域に行くことができれば、と思う。また、隣接するシンガポールやマレーシア、歴史的関係の深いインドへの留学にも興味を湧いた。
- ②今までに2017年の2月から3月にかけて2週間タイに留学、9月に旅行でチェコ、オーストリアに行ったことがある。タイではマヒドン大学にてタイの文化を学習した。これらの経験から、自信を持って今回のインドネシア大学でのプログラムをやり遂げられたように思う。
- ③プログラムでは、インドネシア語を主として、アルンバやガムラン、バティック体験などの授業を受けた。これらの授業を通してインドネシアの文化を学ぶことができた。また、冒頭で触れたように、このプログラムでは最終日に日本語学科で日本語を学ぶインドネシア大学の学生と共同プレゼンテーションを行う。その発表準備を中心として、インドネシア大学の学生の日本語学習の補助を行いつつ、文化的背景の異なる学生との交流を深めることができた。
- ④また、共同プレゼンテーションを行った学生との交流やインドネシアでの生活を通して、インドネシアにおける農業の問題点について興味を深まった。日本の農業が抱える問題点と重なっている部分もあり、火山国家であるという共通点もあることから、それぞれの良い点を取り入れ、欠点を少なくしていくことができるのではないかと感じた。将来、研究や仕事を通して、インドネシアと日本の農業の懸け橋になることができれば、と考える。